

地域と歩むフードバンク活動

すべては子供と地域の未来のために

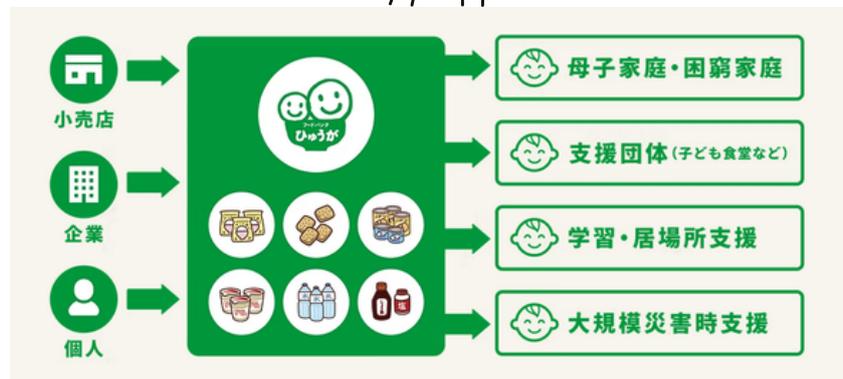


富島高等学校を通じてフードバンク日向へ

2月25日（水）社内で実施したフードバンク支援活動において、皆さまから寄せられた善意の生活支援物資を、カテール課のMさんとシース課のNさんが富島高校へお届けしました。今回集まった品々は、生徒の皆さんが地域の福祉団体へ仕分け・配送する学習活動の一環として活用されます。

私たちの取り組みが、地域の子どもたちの学びや支援の輪につながることを実感できる機会となりました。ご協力いただいた従業員の皆さまに心より感謝申し上げます。今後も、地域とともに歩む活動を継続してまいります！

フードバンクとは？



フードバンクとは、安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動です。もちろん、個人からの寄付も募っており、賞味期限が十分に残っていて、ご家庭で食べきれない常温管理の食材を集め、必要なお家庭に届けます。

集まった食品や品物

おむつ、乾麺、ノート、鉛筆、缶づめ、レトルト食品、スナック菓子、味噌汁、フリーズドライ、非常食、タオル、使い捨てマスク、ジュース、調味料、コーヒー、ベビーフード、スープ、シチュー粉末、つくだに、インスタントラーメン、ティッシュ etc...

見えない貧困の存在



平成28年度の国民生活基礎調査によると全国で7人に1人の子どもが貧困状態にあるといえます。このような貧困状態は相対的貧困とも言われ、地域の平等等価可処分所得の半分以下で生活する世帯（例：日本では2人世帯で年間所得が120万円以下の世帯）のことを言います。子どもの学力や、高校・大学への進学率は家庭環境や子どもの頃からの生活習慣、親の所得などが大きく影響しているとも言われています。私たちの活動により、少しでも子どもの未来のために使えるお金を増やし、社会システムや構造により生み出される貧困の連鎖を断ち切りたいという想いも込めてフードバンク日向は活動しています。